

研修会報告

実のある研究協議会にするために

担任力の向上を目的としたミドルリーダー研修会では、今年度「学習指導力」に特化し、早稲田大学 小林 宏己 教授 より校内授業研究会の進め方についてご指導いただきました。児童生徒の学びの事実に基づく考察や参観者による代案性のある改善策の創造など、校内授業研究会を充実させるためのポイントを体験的に研修することができました。以下に具体的な進め方を紹介します。



<研究協議会の事前準備>

- (1) 授業記録…授業の事実に基づいた逐語記録やメモ書き等を自ら用意する。同時に、授業の映像録画も行う。
- (2) 「初発の感想」の共有…授業直後に各自の気づきをカードに記入し、協議会冒頭までに印刷配付する。
- (3) 協議会場…授業教室を第一とし、板書、机配置等は授業実践時の状態を極力保つようにする。難しい場合は、板書の写真や子どもの名前を明記し教師と子どもの言動に通番を付したものを印刷配付する。

<ワークショップ型研究協議会の進め方>

- (4) グループ協議…自評から始めない。付箋と模造紙を使って協議する。経験年数等から同質あるいは異質のグループ構成を工夫し、ファシリテーター、グラフィッカー等の役割を分担しあう。
 - ① 課題に即して「気づいたこと」を付箋に書き出す。
 - ② 自らの経験、思いや意見を語る。発言を繋ぎながら語り合う。貼り出された付箋・発言につなげて順次各自が付箋を寄せて貼り語り合う。
 - ③ 付箋を複数の意見のまとまりに分類・整理する。余白を十分に取り、付箋を再配置する。
 - ④ 付箋のまとまりごとに簡潔な見出し文を付ける。体言止めは避け、「何が、どうなのか」を明記する。
 - ⑤ 課題に対する「対応/改善案」を協議し、模造紙に太字カラーペンで図案化しながら「何を、どうするか」を明記していく。
- (5) シェアリング…各グループの模造紙を全員で自由に移動しながら相互に見合い、その場で懇談する。
- (6) **全体協議**
 - ① 授業の事実、特に子どもの学びの姿に即して、感想・意見、自他の経験等の交流に努める。事実から遊離した一般論や印象批評は避ける。
 - ② 協議の話題・論点（研究課題への対応を含む）に応じて、授業場面に即した意見や代案を備えた批評等、実践的な知見の創出に努める。
 - ③ 代案（「ネクストプラン」：次にどうすればよいか、「アナザープラン」：さらにどのような可能性があるか）を見出すこと。それが困難な場合は、全校的な課題として共有し、次回の論点として継続・蓄積する。
 - ④ 助言者の一方的な「講話」に終始しない。
- (7) 振り返り…授業者より自らの学びを語ってもらい閉会とする。参加者一人ひとりの省察を共有するため、参加者各自が感想・意見等をカードに記入し、翌朝までに印刷配付する。

「おきたまの教育」年度末に向けた取組のポイント

「考える力をはぐくむ授業づくり」をめざして

(1) 担任力の考え方を生かした授業づくりを行う

〈学習指導力〉

- ・深い教材研究のもと、つきたい力を明確にして、子どもの考えを生かした授業づくり

〈生徒指導力〉

- ・一人一人の子ども理解に努め、自己存在感や自己決定のある共感的な人間関係を大切にした授業づくり

〈特別支援教育力〉

- ・特別な支援を必要とする子どもの困り感を理解し、適切な個別指導を仕組んだ授業づくり

(2) 単元全体を見通しながら、各時間の指導内容を重点化する

- ・単元計画の中に「関心・意欲」を高める手立てを意図的に位置づける。

(3) 教科の特性を踏まえた（ねらいを明確にした）言語活動を設定する

- ・考えのちがいやよさを認めながら、課題解決のための思考力・判断力・表現力の育成につなぐ。

- ・みんなが「楽しく・わかる・できる」ユニバーサルデザインの授業づくりを進める。

(4) 誤答や子どもの考えを生かした「実感のともなうまとめ・振り返り・（練習）」を位置づける

- ・適切な評価基準を設定し、子どもの見取りから適切な指導・支援につなぐ。

(5) 事後研究会では、学校の課題を解決するまで協議し、日常化につなぐ

【算数・数学の学力向上について】

- ・算数、数学への「関心・意欲」を高める手立てを工夫する。
- ・単元指導計画の中に、高みのある問題等を位置付ける。（スパイス問題シートの活用等）

「スパイス問題シート」を活用しましょう！

- 思考力・判断力・表現力を高める単元づくりや授業づくりの参考に
- 毎時間の学習問題・評価問題作成の参考に
- 子どもの意欲を高める家庭学習の活用に



「自尊感情を育む集団づくり」の一層の推進

～いじめ・不登校・問題行動等の未然防止に向けて～

(1) 生徒指導の機能を生かした授業づくり（授業を核とした生徒指導の推進）

- ・「担任力」を意識しながら（「学習指導力」「生徒指導力」が十分発揮される授業の推進
- ・児童生徒にとって「わかる、楽しい」が実感できる授業の推進

(2) 児童生徒にとって魅力ある学級づくり（居場所づくり、絆づくり）

- ・児童生徒が安心して学習や生活ができる環境づくり（居場所づくり）の推進
- ・子ども同士による温かな関係づくり（絆づくり）の推進

※「生徒指導リーフ」等の資料活用の促進

(3) 「学校のいじめ防止基本方針」に基づく組織的取組の推進

- ・「学校のいじめ防止基本方針」がいじめ問題対応の行動指針であることを共通認識し、いじめ防止基本方針に沿った実効性のある組織的対応の推進
- ・「学校のいじめ防止基本方針」の内容について、保護者、地域、関係機関への周知と一体となった取組の推進